

今回、高等教育研究センターとの共催で「eALPS 講習会」は「FD 講習会」として実施されました。今号では 9 月末に行われた第一回目の「教育における ICT 活用に関する FD 講習会」の様子をお届けします。また外部電子ジャーナルが、より便利にご利用できるようになっていますので、その方法もご紹介いたします。

contents

e-Learning center newsletter No.7

- | 教育における ICT 活用に関する FD 講習会開催
- | Information 外部電子ジャーナルが利用可能
- | 活用事例紹介 1・2

高等教育研究センターと e-Learning センターの共催企画

教育における ICT 活用に関する FD 講習会が開催されました！

「eALPS 講習会」が教育における情報通信技術 (ICT) の活用能力を高めることを目的として、高等教育研究センターと共同で実施する FD (Faculty Development) と位置付けられました。

その第一回目の FD 講習会が 9 月 20 日に松本キャンパス全学教育機構・32 番講義室 (PC 端末室) で「教育における ICT 活用に関する FD 講習会」と題して開催され、松本キャンパス所属学部先生方をはじめ、工学部、教育学部などからも大勢の先生方にご参加いただきました。

今回のテーマは「eALPS を使いこなそう」。最初に具体的な利用例として、すでに授業で eALPS を活用されている二人の先生に事例紹介 (次頁参照) をしていただきました。

その後、ログイン方法からコース編集に至るまでの初歩的な講習を行いながら参加された先生方は実際に eALPS に触れていただくことができました。

後半では「こんなことに苦労しているが eALPS で解決できるだろうか?」「このような場合には eALPS のどの機能を使ったらいいだろうか?」といった、相談や質問などがあり、e-Learning センターのスタッフが個別に対応させていただきました。講習会の後も、参加者から、様々な質問が寄せられ、高等教育研究センター及び e-Learning センターの両センターを身近に感じていただけようになりました。今回は松本キャンパスでの開催でしたが、今後は各キャンパスでも FD として位置付けて実施していく予定です。広く教職員の方々のご参加を期待しています。また、参加者には、後日 FD の参加証書が交付されました。



←参加者に渡された FD 参加証書

e-Learning

「外部電子ジャーナル」などのサービスが、学外にいても学内にいるように使うことができます。



学外 (自宅など) から上記電子ジャーナル及びデータベース・パッケージを利用することができます。ご利用方法は「ACSU」にログインし、左メニューに表示されている「eALPS サイト一覧」をクリック→[GakuNin] のタブからアクセスしてください。

教職員の方は「業務用 ID」でログインする必要があります。ACSU の ID をお持ちで無い方でも利用可能な場合がありますので、各キャンパスの図書館にお問い合わせください。詳細は以下の URL をご覧ください。



eALPS サイト一覧

URL : <http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/e-information/r-access.html>

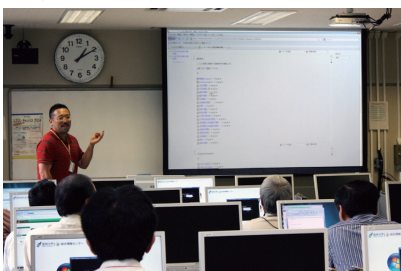
活用事例紹介 1 資料・お知らせ・成績処理

全学教育機構 言語教育センター 准教授 花崎一夫

全学教育機構で主に一年生に英語を教えていらっしゃる花崎先生からは、よく利用されている3つの代表的な eALPS の機能、「資料の提示」「学生への連絡」「成績処理」についてご紹介いただきました。これから eALPS を使い始める教員の方々に向けて、実例を示しながら説明していただきました。

資料の提示

授業に関連した教材、主に副教材をeALPS上に掲載されています。それらは授業用の教材というよりはむしろ、学生が授業に臨む前や授業を受けた後に活用するための教材です。花崎先生がご自分で作成された教材で、文法の項目毎に問題とその解説がまとまっている小さな教材です。また、信州大学が契約しているALCネットアカデミーという教材システムにもリンクが貼られ、ここからログインして勉強できるようになっています。



学生への連絡

「来週テストを行う」などの授業に関する連絡事項も eALPS に載せていらっしゃる。教員自身も忘れなくてよいとの事でした。

成績処理

成績を評価する際にも eALPS を使用されています。英語の成績評価の場合、普段の平常点とテストが半々程度になっていますが、この平常点をどのようにつけるかというのを eALPS で解決されています。花崎先生は毎回小テストを行い、それをカウントして平常点をつけていらっしゃいます。eALPS の「評定」を見ると学生の合計点の一覧が表示されますので、S にするとか A にするといったことが簡単にできます。最後の小テストの採点が終わると自動的に成績がつけられ、成績管理が非常に楽であると話されていました。



コースページのトップには、自己紹介とご自宅のガレージで趣味の筋トレ中の写真が掲載されています。学生から教員の顔が見え、興味を持ってもらうという意味でこういった事も実は大変有効です。



高等教育研究センター
矢部副センター長

活用事例紹介2 学生をマネジメントしよう

全学教育機構 基幹教育センター 教授 鈴木治郎

鈴木先生は、実際に授業で利用されている「検索の科学」のコースを演習用として使いながら、学生をマネジメントするための機能を中心にお話してくださいました。

自動的に記録されている情報の活用

学生に eALPS を利用するように伝えておくだけで、コンピュータが得意な「機械的 24 時間自動処理」により学生のアクティビティを把握することができます。小テストを実施したりアンケートをとるといった「積極的情報収集」を行わなくても可能です。

eALPS の「参加者」メニューから、コース自体にいつアクセスしたか、各教材それぞれにアクセスしたかどうか、何回見たかなどの学生の行動を追跡することができます。右は、実際に鈴木先生が担当されているコースの例です。頻繁にアクセスしている学生や既に受講放棄しているであろう学生の履歴、最終アクセスが

レポートの締め切り前に多いことなどを見せてくださいました。

さらに特定の個人に関して、「フォーラム投稿」でフォーラムに投稿した内容の一覧を表示したり、「活動のレポート」でどの教材を何回閲覧したかを確認する方法などを説明されました。



高等教育研究センター
矢部副センター長

eALPS のような LMS(Learning Management System)からは様々な情報が得られ、それをもとに学生がどれだけ理解しているか、どれだけ勉強してくれているかというのがわかる、これは極めて大事なことです。教員個人が知って学生の指導に役立てるということもありますし、大学全体として本校の学生がどれだけ自習しているのかを見て、今後どういうことをすれば学生はもっと学ぶようになってくれるのかという事を考えることができます。

最後に鈴木先生は、初心者向けの講習会でこれらの機能を紹介した理由を以下のように語られました。

「通常の教室で行う授業でも同じですが、学生からのリアクションがないと、教員というのは孤独感が辛いことがあります。今日、紹介した機能というのは、直ちに、自分がしたことの反応がでているかどうかをみることができます。facebookのように「いいね!」とか言ってくれるわけではないけれど、自分が孤独感を味あわないための工夫というのを知っておいた方がいいでしょう。そしてそれは決して上級者でなければ使いこなせないというわけではないことを知って、ぜひ使ってみてください。」